

検討対象システム

本市の都市規模に応じた新たな交通システムの事業規模や輸送力等を考慮し、以下の3つのシステムを検討対象としました。

路面系システム

BRT(次世代型バスシステム)

- 低床型の高機能バス(2両連結の連節バス等)が主に道路上に設けられた専用空間を走行する。
- 停留所は地上に設置。
- バス車両を使用するので、郊外などで一般の道路に乗り入れることも可能。



LRT(次世代型路面電車システム)

- 低床型路面電車が、道路上に設置された線路を走行する。
- 停留所は地上に設置。
- 線路を整備しないと運行できないが、電気を動力とするため車両から排気ガスを排出しない。

高架系システム

小型モノレール

- 道路上に設置された高架構造物上(線路)を走行する。
- 信号の影響を受けないので速度は速くなるが、利用者の上下移動が必要となる。
- 一般的には路面系システムに比べ駅間は長くなる。



新たな交通システムを検討するためのポイント

導入区間は・・・

- 様々な都市拠点や交通拠点と連携が図られているか
- 一定の利用が見込まれるか

導入空間は・・・

- 道路空間を総合的に考えるなかで、新たな交通システムの走行空間が適切に確保できるか

サービスレベルは・・・

- 定時性、速達性が確保できるか
- 必要な輸送力があるか
- 誰もが快適に利用できるサービスか
- まちの魅力を高めるシステムか
- 環境負荷の低減が可能か

バスや自動車等との連携は・・・

- 既存路線バスや自動車、自転車との連携はしやすいか
- 都心部だけでなく、郊外からの利用者にとっても使いやすいか

事業規模は・・・

- 初期投資額と維持管理費はどの程度か
- 事業採算性はどの程度か